

復興フォローアップ委員会（第1回）議事概要

1. 日時 平成17年6月24日（金） 15:00～16:00
2. 場所 ラッセ・ホール 5階 サンフラワーの間
3. 出席者 市川禮子委員、梶本日出夫委員、加藤恵正委員、角野幸博委員、中島克元委員、室崎益輝委員、河野昌弘委員（代理）
県）齋藤副知事、藤原局長、鬼頭復興推進課長ほか
4. 議事内容
 - (1) 開会挨拶
 - (2) 座長の選出
 - ・委員の互選により、室崎委員が座長に選出された。
 - (3) 副座長等の選出
 - ・室崎座長が副座長、2専門委員会（高齢者自立支援、まちのにぎわいづくり）の委員長、副委員長を指名した。（別紙のとおり）
 - (4) 資料説明
 - ・事務局が「復興フォローアップの推進」について説明した。
 - (5) 意見交換

[復興フォローアップの進め方について]

復興10年総括検証によって、残された復興課題は明らかになったので、今後はこれらの課題に対して、しっかりと対応していくことが重要である。日程が合わずに会議に欠席した委員の意見についても、うまく取り入れられるような工夫をお願いしたい。

欠席委員からのご意見を、ファックスやメールで個別に伺うような工夫をする。（事務局）

現地調査については、地域で頑張っている商店街や苦戦している商店街などに言って、意見を聞いたらどうか。

[高齢者自立支援に関する課題等]

復興基金事業はいつまで続くのか。また、復興基金終了後の対応について、方針はあるのか。

復興基金が今年度末で償還となることから、事業の新規受付は、昨年度末で終了しているが、高齢者の見守りやまちのにぎわいづくりなど残された復興課題に対応する事業については、5年間延長することとしている。今年度は、基金事業の終了後を見据えた対策の検討が必要である。

（事務局）

介護保険法の改正により、今後、介護予防の拠点として、福祉事務所のミニチュア版ともいえる「地域包括支援センター」の整備が進むことが予想されるが、被災高齢者の自立支援には、そのような点も視野に入れた検討が必要ではないか。

神戸市では、在宅介護を支援する「あんしんすこやかセンター」を設置している。高齢者の地域での見守りは、復興対策としてだけではなく、介護保険制度の中で、社会全体の大きな課題として捉えることが重要である。今後の高齢者の見守りを考えると、介護保険制度を活用して、民間事業者に事業を委託することも増えると思われるが、この10年間で培ってきた見守りのノウハウについては、民間事業者との契約の中にしっかり盛り込んでいくべきである。

[まちのにぎわいづくりに関する課題等]

以前、県の商工部局から、商店街の空き店舗を活用した福祉拠点の設置について打診されたが、その空き店舗は、老朽化がひどく、地震でもあれば危険な状態の建物であり、福祉施設としては不適切なものであった。これは一つの事例ではあるが、もっと制度が活用できるような工夫や配慮が必要ではないか。

その制度は、商店街活性化対策の制度であり、福祉の視点が欠けている。今後は、福祉部局と産業部局がジョイントした施策や仕組みづくりを考えていかなければならない。また、空き店舗に役所の機能の一部を入れるようなことも含めて、提案していただきたい。(事務局)

震災以降、大きな人口の流動があり、西宮市や東灘区では新しい住民が大量に流入しているが、旧来の商店街は、新しい住民向けの商売が出来ておらず、大型店舗に客が流れている状況である。今後は、全ての商店街が生き残ることは無理であり、生き残りたいという意欲のある個店をどのように支援するかが課題である。

今後の商店街対策については、頑張っているところには集中投資し、新しい商業集積をつくっていくような支援が必要ではないか。また、地域経済は、産業だけでは回らないことは明らかであり、文化や歴史などが一体となった地域の活性化が必要である。